

アザミウマ類による中晩柑類の被害

近年、様々な品種でアザミウマ類による被害が発生している。症状などから加害種や加害時期を見極めたうえで防除を行うことが必要となる。

○せとか(露地)の果実被害



(6/14)

(6/24)

(7/4)

写真1 果実に生じた傷の推移

チャノキイロアザミウマ(以下チャノキ)が寄生していた果実は、6月上旬頃から果実に障害が認められた。初期は薄い褐色を呈し、極めて見分けにくいですが、時間とともに鮮明になった。

○新葉の被害



葉表を加害し、葉表を内側に、縦方向に葉を巻く。幼虫も寄生。

写真2 チャノキによる新葉被害(せとか)

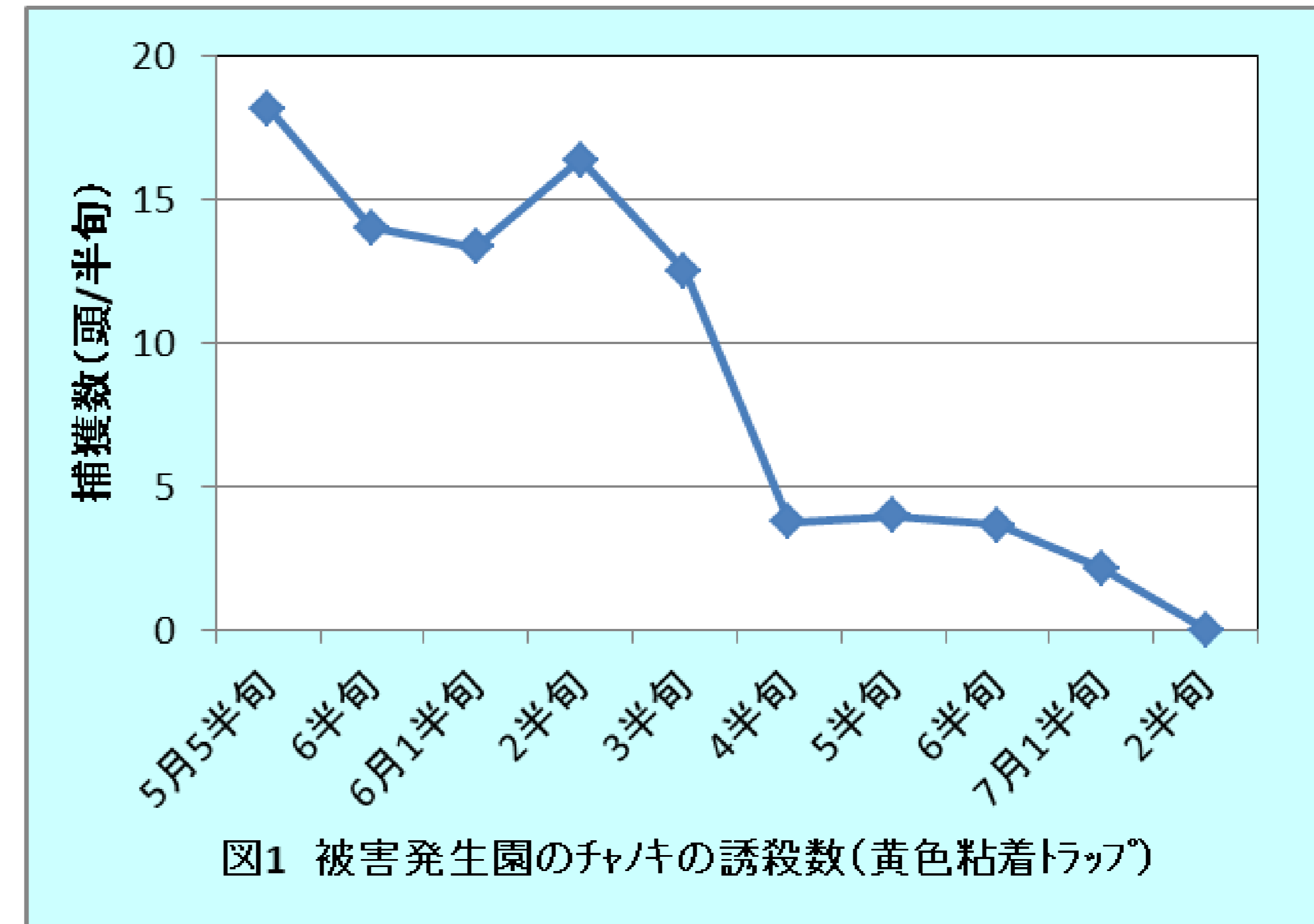


図1 被害発生園のチャノキの誘殺数(黄色粘着トラップ)

被害発生園では、トラップによる調査を開始した5月下旬から多く捕獲され、密度が高かった。

被害果の発生時期(6月上旬)、また、落弁直後(5月中旬)から果実にチャノキの寄生も見られた。

5月下旬～6月上旬の防除が重要。
防除薬剤は、アトマイヤーやコテツなど。



写真3 ミンキイロアザミウマによる新葉被害

葉裏を加害し、白斑を生じる。表から見ると黄化している場合も多い(紅まどonna)。露地では、5月頃開花する下草が多い園地で発生が多い。スピノースやエルサンなどで防除を行うが、地域により効果が異なる。